

10/14日の計算特講



★1、2年生も参加、計算特講★  
10月14日、昨年まで中3生だけがやっていた土曜特講の第1回の計算特講、今年は1、2年生にもやってもらったことにしました。正答率が低く、スピードもなく、とにかく計算力の無さが目立ったからです。午前9時から午後5時までに、1年生は360問、2年生は400問、3年生は700問です。結局この日終われたのは1年生の福士大陸君、2年生の小澤涼香さん、香川聖佳さん、田中晴斗君、福士太郎君の5人だけで3年生には終わった人はいませんでした。終わっていない人は、帰りに残ってやるか、別の日に来てやってもらうことになります。続いて28日の土曜日、3年生は学力C対策の授業を、1年生は比例・反比例、2年生は一次関数の関数特講を行いました。関数は小学校から高校まで続く、数学の大事な単元の一つです。関数、基本の6、7割は計算問題ですから、早い時期に計算部分をマスターすることが大事です。それが出来れば入試勉強をするときにもとても優位になります。みんな、文章問題ができないと言いますが、実は計算問題を正確に解くことのできない人がほとんどです。読解力の無さ、表現力の無さや積極性の無さは小学生用の国語の宿題のやり方にも表れています。数学も同じで考える前に「解かりません」、すぐ楽な方を選択します。出来るかどうかよりも考えることが大事なのに、簡単に諦めてしまいます。

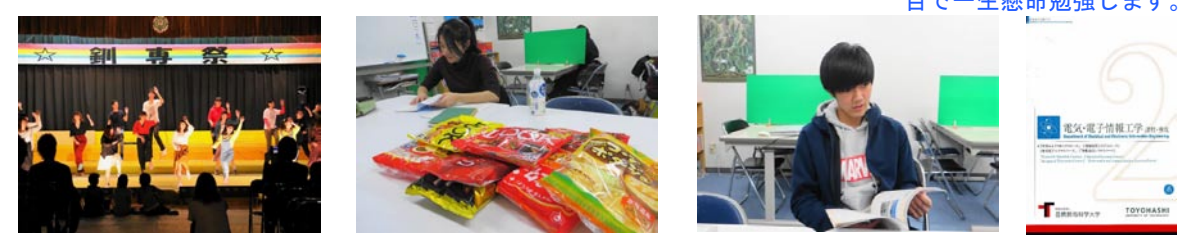
28日 3年生は学力Cテスト対策の授業を。



同じく28日 1年生は比例反比例、2年生は一次関数の特講



1、2年生の土曜特講ときにも勉強した湖陵の1年生と高専の1年生



生は学力C対策の授業、1年生は比例・反比例、2年生は一次関数の関数特講を行いました。関数は小学校から高校まで続く、数学の大事な単元の一つです。関数、基本の6、7割は計算問題ですから、早い時期に計算部分をマスターすることが大事です。それが出来れば入試勉強をするときにもとても優位になります。みんな、文章問題ができないと言いますが、実は計算問題を正確に解くことのできない人がほとんどです。読解力の無さ、表現力の無さや積極性の無さは小学生用の国語の宿題のやり方にも表れています。数学も同じで考える前に「解かりません」、すぐ楽な方を選択します。出来るかどうかよりも考えることが大事なのに、簡単に諦めてしまいます。

「こんな人たちが」が社会人になったらどうなるんだろうと心配になります。最近、塾では「普通のこと」が出来ないと言われる「発達障害」に非常に関心を持っています。今まで、ちゃんと出来ない生徒は「怠けている」とか「やる気がない」とか思ってた。ところが最近「発達障害」があると、ごく当たり前の事、普通の事が出来ないことが判ってきました。原因はよく分かりませんが、少なくとも「過保護」や「過干渉」、「褒めて育てる」などという安易な環境が要因の一つだと思います。優しい親、優しい大人、優しい学校、建前論で報道するメディア、それらが裏面の記事にあるように「小学生暴力、10年で6倍 感情抑えられず」。北海道でも「いじめ認知大幅増」、「小中学校での不登校も過去最多」に繋がっているのではと思います。

10/8 初めて保育科と介護科のある釧路専門学校に学校祭に行ってきました

市立病院放射線技師の住川さん、月一だという大量の差し入れ!

10/19 豊橋技術科学大学への進学が決まっている高専5年生の斗内君、この日は弟を迎えに来てくれました。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
				● 武修定期 (S1)	● 北陽定期 (S1)	● 江南定期 (S30)	● 休塾	● 土曜特講③等式の変形&角度	● 休塾 勤労感謝の日★道コン3年★	● 阿寒定期	● 遠矢定期 (S21) 湖陵定期 (S24)	● 富原・鶴居 (S22) 定期	● 休塾	● 土曜特講②関数	● 美原定期 高専定期 (S24)	● 鳥取・鳥取西定期 (S17)	● 景雲3年・共栄・北定期 (S16)	● 休塾	★1000分特講	★1000分特講	● 休塾	● 学力Cテスト	● 休塾	● 休塾	● 休塾	● 休塾 文化の日	● 休塾 文化の日	● 休塾 文化の日	● 休塾 文化の日

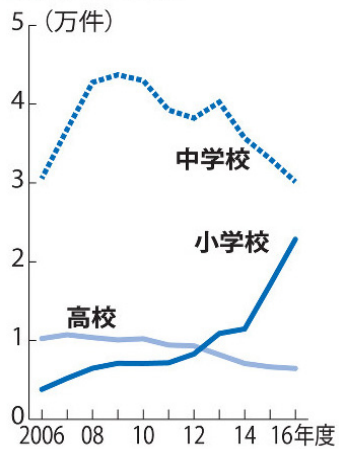
11月の予定

アンヴェラ・アキ  
『手紙〜絆〜 十五の娘〜』  
映画『くちびるに歌を』

## 小学生暴力最多 10年で6倍 感情抑えられず

文部科学省が26日に結果を公表した2016年度の問題行動・不登校調査で、小学校ではいじめの認知件数だけでなく、暴力行為件数と不登校の児童数も過去最多となった。いずれも低年齢化が進んでいる。学校現場からは感情を抑える力やコミュニケーション能力が低下し、児童同士のトラブルが急増していると指摘する声が上がっている。

### 暴力行為の件数



全国の国公立私立小学校で起きた暴力行為は前年度比33.8%増の2万2847件で、10年前の06年度(3803件)の6倍になった。いじめの認知件数は10年前の4倍で、暴力行為が急激に増えていることがうかがえる。

暴力行為の件数は学年が上がるにつれて増えるが、前年度からの増加率は1年が58.5%、2年が38.0%、3年が41.6%と低学年で高かった。内容は「生徒間」が69.2%で最も多く、「対教師」が15.9%、「器物損壊」が13.5%と続いた。

一方、病気や経済的理由以外の要因で年間30日以上欠席した「不登校」の児童は前年度比12.9%増の3万1151人。4年連続で増加し、12年から1万人増えた。年間授業日数の半数に近い90日以上休んだ児童が44.1%を占める。

不登校の児童数も学年が上がるのと同時に増えるが、増加率が最も高いのは2年の21.9%で、低学年が高い。要因は「友人関係」が18.4%で、「家庭状況」(52.1%)に次いで多かった。

文科省によると、暴力行為のきっかけは「休み時間の遊びで口論になった」「授業やテストの間違いをからかわれた」などが多いという。東京都内の公立小の校長は「感情をコントロールできず、言葉よりも先に手が出てしまう児童が増えた。児童同士の小競り合いは毎日のように起きている」と明かす。

スマートフォンの普及がコミュニケーション能力の低下につながっていると見る専門家もいる。総務省の調査では、スマホを持つ6~12歳は13年に17.9%だったが、16年は33.8%になった。

公立校でスクールカウンセラーを務める諸富祥彦・明治大教授(心理学)は「児童の間でもLINE(ライン)など短文メッセージのやり取りに慣れてしまい、言葉(ごい)が不足して話し合いで解決できなくなっている。メッセージで悪口を言われたり、無視されたりすることが不登校のきっかけにもなる」と指摘している。

【伊澤拓也】 毎日新聞 2017年10月26日



## 道内もいじめ認知大幅増

16年度調査 小中不登校は最多

道教委が26日発表した「2016年度の児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、道内の問題行動では、暴力行為は減少したが、いじめの認知件数は2025件も替えて7562件となり、06年度の7785件に次いで2番目。小中学校での不登校も過去最多の4995人に上った。(武田博)

調査は、道内の公立小中高校と特別支援学校合わせて1977校の485541人を対象に実施した。いじめの手口のトップは「冷やかしかからかい。悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」。小学校が64%、中学が72.6%、高校68.6%、支援学校も45.5%だった。次いで「軽くぶったり遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」。

学校別では小学校が1699件増加し5185件。中学は311件増の11899件、高校27件増の456件、特別支援学校は12件減の22件。1000人当たり発生件数は11.2人から15.6人になった。文科省の定義に従い昨年、札幌市が友達同士のけんかやふざけ合いなども背景によっていじめと認知する件数が大幅に増加したのが全道的に定着したためと、道教委では分析している。

不登校は小学校が89人増の1031人、中学校が311人増の3964人で、小中学校だけで4995人と1万人に迫った。公立高の不登校は47人増の754人、中退は114人少ない1534人だった。暴力行為は、小学校で60件減の372件、中学が122件減の424件、高校が5件減の186件だった。

いじめの増加について道教委は「初期段階のものを積極的に認知した結果」と肯定的に捉えているが「不登校の増加など依然憂慮すべき状況にある」と取り組みの強化・充実に力を入れる方針。今後の対策としては「未然防止、早期発見・早期対応の観点から引き続き、教育相談体制の充実、教員の指導力の向上、関係機関等と

の連携の強化を図りたい」としている。

釧路新聞 10.27



## 地毛茶髪、黒染め強要 高3提訴

心身に傷、不登校に 修学旅行、締め出し 大阪の府立高

頭髪が生まれつき茶色いのに、学校から黒く染めるよう強要され精神的苦痛を受けたとして、大阪府羽曳野市の府立懐風館(かいふうかん)高校3年の女子生徒(18)が約220万円の損害賠償を府に求める訴えを大阪地裁に起こした。27日に第1回口頭弁論があり、府側は請求棄却を求めた。生徒は昨年9月から不登校になっており、「指導の名の下に行われたいじめだ」と訴えている。

訴状などによると、生徒は2015年4月に入学。中学時代に黒染めを強要されて嫌な思いをしたため、母親は「高校では同じことがないよう配慮してほしい」と伝えていた。

しかし、学校側は生徒の入学後、1、2週間ごとに黒染めを指導し、2年の2学期からは4日ごとに指導。度重なる染色で生徒の頭皮がかぶれ、髪はぼろぼろになった。教諭から「母子家庭だから茶髪にしているのか」と中傷されたり、指導の際に過呼吸で倒れ、救急車で運ばれたりしたこともあった。文化祭や修学旅行には茶髪を理由に参加させてもらえなかった。

生徒は昨年9月、教諭から「黒染めしないなら学校に来る必要はない」と言われ、それ以降は登校していない。学校は今年4月、生徒の名前を名簿から削除。他の生徒や保護者には、退学したと虚偽の説明をしたという。

学校側は生徒の代理人弁護士に「たとえ金髪の外国人留学生でも規則で黒染めさせることになる」と説明している。

府教委高等学校課と同校は取材に、「係争中なので答えられない」と話している。「登録」「証明」制、導入例も

複数の大阪府立高校では、頭髪が生まれつき茶色い生徒に誤った指導をしないように、「地毛登録」と称する制度を導入している。

登録自体を問題視する声もあるが、府教委は「制度の導入は各校に任せており、実態は把握していない」としている。

ある府立高では、約10年前から制度を始めた。地毛が茶色い生徒は入学時に色合いを計測し、数値化して登録し、色の変化がなければ指導しないという。1学年に10人ほど登録する生徒がおり、校長は「地毛かどうかは生え際を見れば分かる。生徒の人権を守るためにも制度を続けている」と話す。

訴訟を起こした女子生徒の母親は入学時、「地毛登録制度があるなら申請したい」と訴えたが、懐風館高校は導入していなかった。

東京都でも、都立高校の一部が「地毛証明書」を提出させ、頭髪の色が生まれつきかどうかを確認している。幼少期の写真を求める学校もあるといい、都教委は7月、「届け出が任意であることを、生徒保護者に明確に伝える」ことなどを全191校に通知した。【遠藤浩二】 毎日新聞 10.27

## 黒髪に染めることを強要する府立高校 教員によるイジメを放置する教員たち 日本社会に蔓延る不正に対する無関心

今時、こんなことをしているのかという驚きが教育現場では起きていました。「金髪外国人でも黒に」茶色の髪の子高生に黒染め強要、府「事実と異なる点もある」(毎日放送 2017年10月27日)

「女子生徒は、頭皮がかぶれるほど黒染めを繰り返してきましたが「黒染めが不十分」と指導され、去年9月以降、不登校になりました。」

地毛が黒ではなく、茶色であるに関わらず、それを染めよなどというのは論外です。常識レベルでわかることなのに、府立高校がかかる指導(というより指導の域は超えているので強要)していたのは時代錯誤も甚だしく、人としての優しさは全く持ち合わせていないのでしょうか。権威を振りかざし、それに従わせることに喜びを感じているが故にできる芸当です。

これを読むと人種差別意識まで見えてきます。

「茶髪で生まれたら普通じゃないの?」黒染めを強要された女子高生の想い 地毛が茶色なのに黒に染める必要など全くないこと、過ぎたる「指導」がイジメであることは誰でもわかります。 常識レベルです。 B LOG S 10.29

「世界に目を向けよう」、「英語が話せるようになろう」と言いながら、一方でこのような信じがたい現実。日本の公教育は「建前論」で行われ、本来の教育ができていない。特に教育の「育」の劣化が目立つ。服装や髪の色やピアスやマニキュアのチェックをする。同じ年齢でありながら高専生は全くその様な管理はされない。そんな事よりも、自由な分、自分に対して大きな責任を負うことを要求される。したがって、早く大人になる。だから企業からの信頼が大きく、求人倍率が20倍となる。高校の修学旅行、未だに「ディズニーランド」啞然とする!